

平成29年度 幼稚園・保育園のための 子ども読書研修会実施しました！！

御存知のとおり、読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。読み聞かせを通して子どもたちに読書の楽しさを伝えていけるとよいですね。そこで、今年度初めて開催した研修会についてお知らせします。

日時：平成29年6月27日（土）13時00分～15時15分
場所：山口県立山口図書館 第2研修室
内容：幼稚園教諭、保育士を対象とした絵本や読書についての講演会
参加者：44名（幼稚園教諭10名 保育士25名 その他9名）
※その他：公立図書館職員、学校司書、読書ボランティア等



講師 徳永 満理 氏

(社会福祉法人おさなご保育園理事長)

演題「絵本と子どもが出会ったら～イメージを育てる読み聞かせ～」

読み聞かせのポイント

- ①タイトルの紹介
 - ②表紙の絵を見せて、子どものイメージを膨らます
 - ③読み聞かせ開始
- ※ゆっくり読んで、ゆっくり絵を見せてあげることが大切です。

絵本の世界だけで終わらず、**実体験とつなげましょう。**特に五感を大事にしましょう。

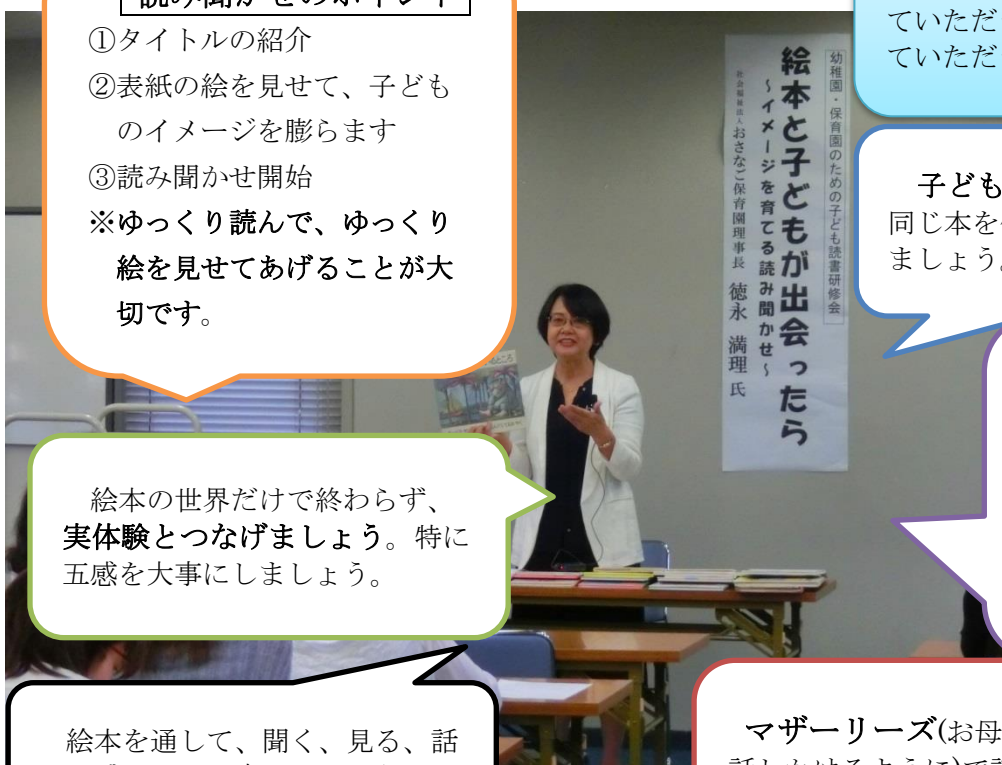
絵本を通して、聞く、見る、話し、感じる心を育てましょう。

当日は、子どもの発達段階に応じた読書との関わり方の大切さを教えていただき、豊富な実践例も示していただきました。

子どもが満足するまで、同じ本を何度でも読んであげましょう。

感動は行動への始動力になります。言葉で考えることで思考機能が育ちます。小学生になるまでに、**自分の心に話しかけることができる子に育てたいもの**です。

マザーリーズ(お母さんが赤ちゃんに話しかけるように)で読みましょう。
ポイント：声のトーンを上げて、尻上がりに。できるだけいい声で、いい言葉を！



徳永先生が話された子どもの発達段階

時期	内容
0～2歳頃	大人との関わりを楽しみ、言葉への期待感が高まる頃 ○ことばへの期待から表象の世界へ
2～4歳頃	言葉が解り、見えないものを見始める頃 ○イメージの育ちと見立て・つもり・ごっこ遊びの世界へ
4～6歳頃	見えない世界を楽しみ、想像の翼を膨らませる頃 ○イメージ力が膨らみ、物語の世界を楽しむ
6～7歳頃	想像力の高まりと物語の底にあるメッセージを捉えようとする頃 ○登場人物などの生き方や考え方を内面に取り込み、自分を変えようとする。



参加者の声

- 読み聞かせの根底部分を見つめなおす機会になった。
- 絵本を通じ、様々なことを感じる子どもたちの成長につながると改めて感じた。
- 絵本は情緒の発達、自己の確立、他者理解すべてのコミュニケーション能力の礎と思った。
- 毎日一冊でも時間を作って子どもたちによい本との出逢いを作りたい。
- 子どもの創造力を引き出す工夫をしていきたい。
- 子どもたちのイメージの世界を大切にしていきたい。
- 子どもたちの発見をきちんと受け止めようと思った。
- 読むだけでなく体験につながる読み聞かせをしていきたい。
- つぶやき日記をつけたいと思った。



読書の大切さ、読み聞かせをする上での工夫を意識して、これからも子どもに読書の楽しさを伝えましょう。そして、保護者にも読書の大切さを伝えていきましょう！！



<子ども読書支援センター(県立山口図書館内)のご案内>

1 団体貸出

学校及び施設・団体に対して絵本や紙芝居、大型絵本、児童書等の貸出しをしています。

期限：3週間、冊数：制限なし（ただし、大型絵本は10冊、大型紙芝居は3冊まで）

2 メールマガジン「本はともだち 山口県子ども読書支援センターニュース」配信（月1回）

内容：①当館で新たに受け入れた新刊絵本や児童書等から30冊程度を選び、内容付きで紹介。

②当センターや山口県内で開催される子ども読書関係の研修会や行事等のご案内。

詳細は、当館 HP (<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/kodomocenter>) をご覧ください。